

中部地区 公民館だより

第138号

令和4年8月1日発行
上山市中部地区公民館
上山市十日町4番11号
TEL 673-2588
FAX 673-0379

選手宣誓



上山市グラウンド・ゴルフ協会会長の大澤久雄さんから“ここぞ”と言う場面での的確なアドバイスをいただきました。

日々の努力と運を味方につけて

6月27日(月)、第10回中部地区公民館グラウンド・ゴルフ大会が開催されました。連日の暑さで熱中症が心配されましたが、当日は雨天のため市生涯学習センターピロティーでの開催となりました。ピロティーは風の通りがよく、気持ち良くプレーできました。参加メンバーは毎週練習している愛好者もいれば、年に1度この大会だけクラブを握るといふ方もいて、レベルはさまざまですが、地区内の顔見知りということもあり、和気あいあいと競技を楽しみました。芝生の上とは感覚が違い、球が転がりやすく、コースを外れてしまったり、ホールポストを通り抜けてしまったりと、「あらー止まれ！」と悲鳴に似た声と笑い声があちこちで響きました。

大会終了後には、「成績はともあれ、元気に体を動かして、いっぱい笑えたのが1番のご褒美だな」と嬉しい感想をいただきました。



ホールインワンが続出

10個のホールインワンが出るなど好成績な大会となりました。1人で3個のホールインワンを決めた方もいて、「日々の練習の成果だね」と称えあいました。

ここは一発決めて、かっこいいところ見せるからな。

入賞おめでとうございます



大会結果

- 1位 大澤静子さん
(八日町1)
- 2位 原田正男さん
(東町)
- 3位 吉田眞智子さん
(御井戸丁)



はこべの会 学習会



6月21日(火)、23日(木)2回に分けて、はこべの会学習会で蔵王ペンション村に行ってきました。

見たことのない珍しい花、自宅の庭に咲いているような可憐な花など、春から初夏にかけての草花が咲いている庭を散策しました。

久しぶりのお出かけでしたが、大自然の中でゆったりとした時間を楽しんでできました。



街歩きウォーキング② ホタル観賞



7月2日(土)、2回目のウォーキングはホタル観賞のため西山に向かいました。中部地区公民館での夜間事業は昨年に続き2回目の事業となり、小学生のいる3家族を含み総勢15人、ガイドを西山地区会長の牧野義文さんに務めていただきました。

お勧めポイントでは、昨年よりたくさんのゲンジボタル、ヘイケボタル、ヒメボタルが暗闇の中で飛び交い、生息地も広がっており、とても感動しました。



終了後、小学5年生の長谷川光斗君が「たくさんのホタルを観れ楽しかった。また絶滅危惧種についても勉強になり、ホタルへのこうした取り組みはSDGsの目標となっていると思いました。」と話してくれました。



上山城学芸員講話



長南伸治学芸員



7月15日(金)、上山城学芸員の長南伸治さんを講師に招き、「上山藩の武士の暮らし」と題して武士のお仕事マニュアルなどの生活実態の講演会を開催しました。

時間が短いという声もあり、皆さん熱心に聴きっていました。



参加者募集

令和4年度

中部地区公民館主催

地域の宝さがしウォークラリー

期日 令和4年9月17日(土)

受付・集合 中部地区公民館

(受付開始午前8時45分)

参加費 中学生以上1人200円(参加賞あり)

宝探し対象地域(管内西部地区)

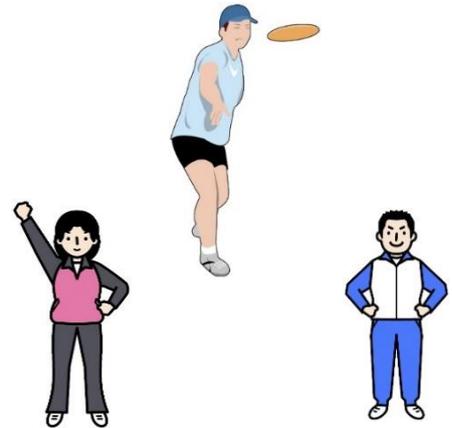
軽井沢、八幡丁、西山、荒町、仲丁
湯町の6地区



詳細については隣組回覧をご覧ください

フライングディスクと輪投げ大会

日時 8月26日(金) 午前9時30分から正午
会場 生涯学習センター 体育館
講師 フライングディスク 笹原京子先生
輪投げ 佐竹絹子先生
対象 中部地区在住の方
参加費 無料
持ち物 マスク着用、内ズック、タオル、飲み物
申込受付 8月2日(火)
申込締切 8月19日(金)
募集人数 25人(定員になり次第締切ります)



8月の予定



5日 落語会
24日 はこべの会サロン
26日 フライングディスクと輪投げ大会
職員は午前中、留守になります

8月の百歳体操はお休みです
9月の百歳体操については、
「公民館だより9月号」をご覧ください

熱中症の予防法

熱中症を防ぐには、「こまめな水分補給」と「暑さを避けること」が大切です。
適切に予防すれば、熱中症は防ぐことができます。

8月のはこべの会サロンはコロナウイルス感染拡大防止のため中止いたします。

中部地区公民館対象地区

上・中・下十日町、上・下新丁、北町、栄町、八日町
1・2、美咲町、東町、沢丁、新湯、荒町、八幡丁、
仲丁、湯町、湯町新道、軽井沢、御井戸丁、新町、
西山

シリーズ『本丸破却』(3) 土岐転封・城破却の背景(2)

上山市民にとって上山城破却(城剥ぎ)は大きな謎です。

土岐頼殷侯の大坂城代の知らせに続いて、上山城破却の知らせが届きました。「元禄五年(1692)5月13日より上山城破却始まり本丸大広間、15日桜門、16日に三階(本丸)矢倉を毀つ。この音おびたしく天地に響き矢倉に綱を付け300人ばかり取つきエイヤエイヤの声すさまじくして引きたおす時地煙り天に上り、見る人涙を催し悲しまざる者なし。17日隅矢倉をたおし、18日下郷より人足200人呼ばれて、下くるわ三嶋坂大手石垣を崩し、家々を毀ち、21日土岐家の奉公人残らず立ち払う。23日大手前の石垣崩される。城剥ぎ普請も相續きてやまず。7月2日に城辺の大木刈り倒す音、雷の落ちるがごとく肝にしみて哀れにもまたおそろし。」

歌に「そよ風もいといしものを桜木に斧打つ音をきくぞかなしき」と書かれています。その後「7月26日皆払い、家も高い入札の方が落札しお渡しになられた」と続きます。何故土岐家従臣の屋敷が壊され、また入札に掛けられたのでしょうか。土岐家家臣団が建てた屋敷を土岐氏が壊す理由があったのか、売却する理由があったのか(転封の経費確保?)、あるいは幕府の指示があったのか、不明です。

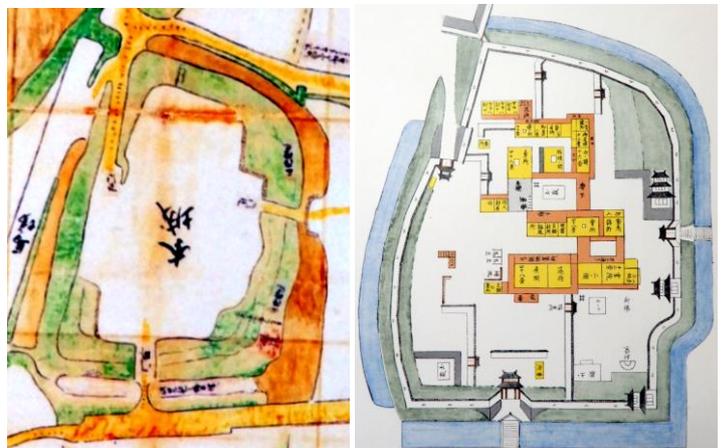
上記城破却のさまに添えられた「破壊の音」は悲しい韻を添えます。大坂城代就任は誉れのことながら、城剥ぎ、家臣団屋敷の破壊・売却は意図が不明です。本丸館の破却前に、土岐氏が軽井沢に建造した菩提寺の増円寺、同じく下十日町愛宕堂を破却しました。菩提寺の破却は額けますが、家臣団屋敷の破壊は藩主転封の際の日常の光景だったのでしょうか。

さて、上山城の破却の理由は市史資料には見当たりません。幕府の資料には残っているのでしょうか。上山藩をとりまく情勢を概観したのが前回の考察でした(72号)が、その取り巻く勢力図を更に深めることにします。

最上義光領57万石は最上家嫡男義康(1602慶長7年、片桐繁雄説1603慶長8年死)

義光の病死(没1614慶長19年)、続いて次男家親(1617元和3年)急死、義俊が継いだ後継内紛にて元和8年(1622)最上家57万石は改易されます。その後徳川家臣で二代将軍秀忠血筋の鳥居忠政が22万石で山形藩初代藩主になります。寛永13年(1636)に秀忠の子保科政之が20万石で継ぎます。保科政之が会津に転封すると、寛永20年(1643)幕府領として一時収公されます。「山形市史」には「奥筋の抑えのとして意義薄くなった」、「外藩警守」の意味がなくなったと記されます。外様の佐竹氏(秋田藩)、伊達氏(仙台藩)、上杉氏(米沢藩)が世を荒立てる動きがなくなったと幕府は見定めたということでしょう。さて当初57万石だった山形領は天領や上山藩などの飛地となったことを意味します。

山形藩領地の縮小は、1644年結城松平直基15万石、1688年には奥平昌能9万石、土岐侯移封・城破却の元禄五年(1692)は奥平松平忠弘10万石、その後掘田正亮10万石が1744年に大坂城代に栄進した後の1746年大給松平乗佑は6万石で、以後幕末まで藩領縮小は続くことになります。山形藩、及び上山藩は幕府にゆかりの領主が宛てられますが、時代の流れで要塞城郭の必要性がなくなり、上山城が「藩塀」の役割を失い「破却」となったと考えることができそうです。



左：金森時代上山城絵図(破却後) 右：(破却前)

※参考文献：「上山市史」「上山三家見聞日記」「上山見聞随筆」「山形市史」「上山城絵図と瓦」を参照しました。